

タイムラインに沿った荒川総合水防演習を実施しました。

羽越水害から50年の節目を迎える新潟県荒川において、「水防災意識社会再構築ビジョン」を踏まえた『逃げ遅れゼロ』『社会経済被害の最小化』の実現に向け、積み土のう工などの実践的訓練や自衛水防組織をはじめとする地域社会が一体となった水防活動の実施、洪水情報のプッシュ型配信を活用した避難訓練など、タイムラインに沿った訓練を実施しました。

- 開催日時 平成29年5月27日（土） 8:30～12:30
- 実施場所 荒川右岸荒川橋下流河川敷（新潟県村上市荒川緑新田地先）
- 実施した演習
水防工法訓練、情報伝達訓練、緊急排水訓練、避難訓練、救助訓練 他
- 参加機関 50機関
- 参加者 大野国土交通大臣政務官、高井新潟県副知事、高橋村上市長、（衆）斎藤議員、（参）森議員、塚田議員、佐藤議員、足立議員をはじめとする約2,500人（来賓及び一般見学者含む）

総合水防演習のポイント

- 消防団による荒川流域の特性に合った実践的な水防工法の実施。
- 大規模水害を想定し、関係機関が一体となったタイムラインに基づく実践的訓練。
- 地域防災力向上のための地域住民、地域企業等の参加による実践的訓練。
- 洪水氾濫発生を想定した排水活動・救助訓練の実施。
- 「羽越水害」の記憶を次世代へ語り継ぐための防災教育・水害記録の展示。



開会式の様子
約1,200名が演習に参加

消防団による流域の特性にあった実践的な水防工法の実施

水防工法訓練



木流し工【浸食対策】



立蛇籠工【浸食対策】



シート張り工
【浸食・漏水対策】



T型マット工
【浸食・漏水対策】



月の輪工【漏水対策】



川倉工【浸食対策】



積み土のう工・改良積み土のう工【越水対策】



関係機関が一体となった洪水タイムラインに基づく実践的訓練の実施



羽越河川国道事務所による
国道7号道路啓開訓練



土砂災害の発生を想定した
陸上自衛隊による救援物資搬送
(大型輸送ヘリ、高機動車)



ブロック投入工及び大型土のう
投入工による応急復旧訓練

関係機関が一体となった洪水タイムラインに基づく実践的訓練の実施



港湾業務艇「あさひ」による漂流物調査



無人バックホウによる流木撤去作業



救援物資輸送訓練



管工事協同組合によるライフライン復旧訓練



陸上自衛隊第30普通科連隊と村上市赤十字奉仕団による野外炊飯・炊き出し訓練



地域住民の参加による実践的訓練



自主防災会による自衛水防活動（土のう積み）



洪水氾濫からの住民避難及び救難・救助訓練



ヘリによる水難者の吊り上げ救助訓練
(新潟県消防防災航空隊・海上保安本部)



村上市消防本部と日本赤十字社新潟県支部によるロープブリッジによる救助、搬送、応急手当訓練



荒川流域地区住民による住民避難訓練

情報発信及び展示・体験コーナー



瀬波温泉潮太鼓、新潟県警察音楽隊の演奏によるオープニングセレモニー



地元小学生による総合体験学習



B S N ラジオの現地生放送

■ 体験コーナー



土のうつくり体験



地震体験



豪雨体験



流速体験

■ 展示コーナー



車両展示コーナー



大したもん蛇



パネル展示



土石流模型実験